

スピーチ原稿

世界の経済的課題・世界の解決策

ウッドロー・ウィルソンセンターでの演説

国際通貨基金 専務理事
クリスティーヌ・ラガルド

2011年9月15日
ワシントン DC

おはようございます。本日このように、皆様にお話することができることを光栄に存じます。ウッドロー・ウィルソンセンターのご招待に感謝いたします。また、行政部、学界、法曹界、そして言うまでもなく米下院で9期務めるなど、長きに渡り偉大な貢献を果たしてこられたジェーン・ハーマン氏に、心より敬意を表したいと思います。今日においても公益のために献身的に尽力するジェーンに感謝いたします。

IMFの専務理事としてワシントン DCで初の主要演説を行う場所として、ウッドロー・ウィルソンセンターほど適切な場所はないでしょう。多国間主義と世界の友好のチャンピオンという称号に、ウッドロー・ウィルソンほどふさわしい人物はいません。同氏が撒いた種は戦後実を結び、IMFとその姉妹機関が誕生しました。我々のマンダートの根底には、連携により経済的安定のみならず、全ての人々のためのより良い未来が実現するという、シンプルながらも力強いアイデアがあります。

この発想が今日ほど重要だったことはありません。

我々が多くの経済的懸念の中で生きていることは間違いありません。リーマン・ブラザーズが崩壊したのはちょうど3年前のことですが、世界の経済活動は鈍化し、下振れリスクが増すなど、経済を覆う空には混乱と問題が山積しているように見えます。

我々は、危機の新たな危険な段階に入ったといえます。協調に向けた決意なくしては、世界が是が非でも必要としている信認が回復することは無いでしょう。

かつてウッドロー・ウィルソンは「我々がなすべきことは、議論に没頭することではなく、問題を明確にすることだ」と述べました。私は、我々を取り巻く環境が暗黒である時に光を照らし、経済が直面する中核的問題を明確にすることが、IMFの責務だと確信しておりますが、同時に、我々はより良い結果を導き出すべく、働きかけを行なうことでも貢献することができると思っています。

このことを踏まえ、これから皆様にお話したいことがあります。

持続的回復への道は存在しています。しかし、その道はこれまでに無く狭いもので、ますます狭くなっています。この道を歩み進めるためには、瀬戸際政策ではなくリーダーシップ、競争ではなく協力、反応ではなく行動といった、世界レベルで強い政治的意思が必要なのです。

世界の現状

では、まず世界経済の概要を簡単にお話しましょう。来週 IMF が見通しを発表いたしますので、本日は大まかな流れにとどめておきたいと思います。

総じて、世界経済は成長軌道にはありますが、減速しています。特に先進国の回復は、緩慢で問題が多く高い水準にある失業率は容認できるものではありません。ユーロ圏の債務危機は悪化しています。金融市場の緊張は高まっています。協調的かつ大胆な行動なくしては、主要各国が前進するのではなく後退するという、実際のリスクに再び直面しているのです。

多くの先進国がこのように厳しい逆風の中にありますが、新興市場国の多くは、インフレ圧力、与信の力強い伸び、経常赤字の拡大など、過度の過熱の中にあります。

低所得国は適切なペース成長を続けていますが、例えば、大きな社会的問題を伴う商品価格の変動など、依然として世界の他の地域に起因する経済的混乱に非常に脆弱な状態にあります。また、旱魃により大きな人的被害を受けているアフリカの角の国々は、国際社会の早急な支援を必要としています。

同時に、我々は、人々がより良い生活とまっとうな雇用を求め、歴史的な転換点にある中東および北アフリカを忘れてはなりません。IMF は先日、リビア国民評議会を同国の政府として承認いたしました。我々には、要請に基づき、技術支援、政策助言、そして金融支援を行い、リビアの国民をサポートしていく用意があります。

問題とは？

本日の私のスピーチのタイトルは「世界の経済的課題・世界の解決策」ですが、まず、解決策についてお話する前に、我々が直面している問題を明確にする必要があります。三つの別個のしかし相互に関連した問題、すなわち、成長の足かせとなっているバランスシート圧力、世界経済システムの中核の不安定性、及び社会的緊張を取り上げたいと思います。

先進国が抱える主な当面の問題は、回復の力を弱めているバランスシート圧力です。システムには余りにも多くの債務が残存しています。先進各国では政府が、欧州では銀行が、そして米国では家計が不確実性に覆われています。弱い成長と、政府、金融機関、および家計の脆弱なバランスシートが、相互にマイナスの影響を及ぼしあっており、信認危機を増幅するとともに、需要、投資、及び雇用創出を抑制して

いるのです。この負のサイクルは勢いを増しており、しかも率直に申しまして、政策の行き詰まりと政治の機能不全により悪化しているのです。

これは、第二のより長期的な問題である、中核の不安定性リスクに関連しています。我々の世界は相互に繋がっており、一国の経済の揺れは、世界中に瞬く間に力強く影響しますが、震源がシステム上重要な国々であれば、なおさらです。IMFのリサーチにより、金融の結びつきがこのような揺れを素早く・広く伝えることが明らかとなりました。これに加え、債務の問題が長期化していることから、金融の安定性リスクは著しく上昇しています。

第三の問題は、表面下で沸騰している社会的緊張に関連しています。ここでは、青年層をはじめとした慢性的な高失業率、社会的保護を徐々に切り崩していく緊縮財政、「メイン・ストリート（実体経済）」ではなく「ウォール・ストリート（金融機関）」が優先されているという不公平感、主に社会のトップの層を益してきた多くの国での成長の後遺症、といった、複数の紐が絡み合っています。これらが、信認危機にさらに油を注いでいるのです。

解決策は？

では、何をする事ができるでしょうか。本日、私は回復と経済の安定性を確保するために不可欠な政策要素として、修復 (*repair*)、再調整 (*rebalance*)、改革 (*reform*)、および再構築 (*rebuild*) の 4 つの R (4 R's) を提案したいと思います。

第一に修復 (*repair*) です。まず何よりも先に、我々は、回復を打ち消す危険性がある、政府、家計、銀行へのバランスシートの圧力を緩和しなければなりません。

政府については、先進国は、公的債務比率を安定させかつ引き下げる現実的な中期的計画が必要です。これが最優先とされなければなりません。しかし、あまりにも性急な再建は、回復を妨げ雇用見通しを悪化させる可能性があります。ですから、信頼性の喪失と成長の弱化という二つの危機の間で、適切にバランスを取ることが課題だと言えます。これを実行する方法はあります。すなわち、中期的に節減を行いその節減を守るが、再建をより緩やかなペースで行うことにより、今日の成長を支える余地を生み出す、現実的な措置を選択するのです。

適切な道が各国で異なることは言うまでもありません。赤字削減に早急に取り組まねばならない国もあるでしょう。市場圧力下にあるならばなおさらです。また、その他の国々は、各々の調整計画を堅持すべきですが、成長がさらに行き詰るようならば、針路を変更する用意がなければなりません。また、あまりにも性急に進めすぎている国もあります。そのような国々は、少々ペースを緩めることもできるかもしれません。

また、どのような調整を行うかという点のみならず、どのように調整を進めるかという点についても考える必要があります。短期的には、政策立案者は、最大限の効果をもたらす、雇用機会の創出や成長を促進する措置、そして所得分配に配慮した措置を重視する必要があります。一方、中期的には、財政計画は成長を支えるものでなければならず、どのように調整を進めるかも重要な点となります。税基盤の拡大などを含めた、税制改革などが考えられるでしょう。同様に、給付金制度改革は、事実上全ての先進国において、長期的な債務の持続可能性を打ち立てる上で不可欠です。

また、政策立案者は、家計と銀行のバランスシートの問題に取り組まねばなりません。

米国の危機的な失業問題につきましては、私は先のオバマ大統領の成長と雇用のための提言を歓迎します。同時に、依然として、公的債務を持続可能な軌道に乗せるための中期的な計画を明確に示すことが重要です。さらに、この雇用アジェンダと平行し、より積極的な元本減額プログラムや住宅所有者の低金利の活用支援のための措置を取ることで、家計が抱える過度の負担の軽減を図ることも重要です。

欧州では、政府は現実的な財政再建を行い、資金調達問題に断固として対処しなければなりません。加えて、民間部門の融資を活用して成長を支えるために、全ての銀行は十分な資本バッファを有していなければなりません。

第二の「R」は、改革 (*reform*) です。修復は経済を前進させるものでしたが、改革は明日のより安定した経済の土台を築くものと言えます。

ここでの優先課題は、金融部門の改革です。プラスの面からお話しますと、我々は、資本の質の向上および流動性基準の強化を適切な段階的なペースで行うことで、大筋で合意しました。しかし、監督、国際的な破たん処理、大きすぎて潰せない機関の問題、あるいはシャドー・バンキング・システムをめぐる問題などでは、依然として大きなギャップがあります。我々は、規制間の裁定機会を防ぐために、あらゆる面で国際的に協力しなければなりません。これらの多くが、リーマンから3年経った今でも未解決であるという事実を、我々全てが真剣に考えなければなりません。

また、我々は、金融リスク対策として、適切に調整されたマクロプルーデンス・ツールを開発しなければなりません。ここでは、経済が順調な時に銀行に資本の増強を行わせる、或いは住宅価格バブルへの対策として LTV を最高比率に設定することなどが考えられるでしょう。

改革の旗印のもと、私は社会的側面についてもお話したいと思います。我々は、雇用を中核に位置づける必要があります。雇用は需要を維持するのみならず、人間の尊厳に関わるものです。ドストエフスキーいわく「意味のある仕事を奪われた者は、生きる理由を失う」のです。これは特に、競争を始める前にレースに負けるリスク

を背負う若者にとり深刻な問題です。また、社会全体を利する包括的な成長を目指さなければなりません。

第三の「R」は再調整 (*rebalance*) です。これには二つの意味があります。一つは、需要の公的部門から民間部門への回帰です。これは、民間部門が公的部門に代わることができるほど十分に力強くなった時に可能となりますが、未だこれは現実にはなっていません。

二つ目の再調整とは、世界の需要の主軸を対外赤字国から対外黒字国へ移行することを指します。ここでのアイデアは、先進国で支出が減少し貯蓄が増大しているなか、主要な新興市場国が一段と積極的な役割を担い、世界の回復を支えるために必要な需要のエンジンとなるという、明確なものです。しかし、これまでの再調整は主に低成長によるものです。一部の国では、内需の成長を著しく遅くし通貨の上昇を必要以上に抑制するという政策を取っていることから、再調整が進んでいません。また、あまりに急激な資本流入に伴うリスクの対処に追われている、新興市場国もあります。

このように再調整作業が不十分であることは、全ての国のマイナスとなります。相互に結びついた我々の世界では、デカップリングは幻想に過ぎません。先進国が景気後退局面に突入すれば、新興市場国も逃れることができないのです。誰も逃れることはできないのです。再調整は世界の利益となりますが、同時に各国のプラスにもなるのです。

ウッドロー・ウィルソンも、そのように考えたのではないのでしょうか。

では、最後になります第四の「R」である、再構築 (*rebuild*) について考えましょう。ここでは、財政ポジションを含めた経済政策のバッファの再構築に取り組みねばならない、低所得国が中心となります。先の危機の際に、この経済政策のバッファは大変な効力を発揮しましたが、今後の嵐から自身を守るために、これらの国々はバッファを再び構築しなければなりません。また、この取り組みにより、各国が、成長を促進する公共投資を実施し、財政の持続可能性への最低限への影響で、商品価格の変動から貧困層を保護するための、十分にターゲットを絞った補助金制度を導入することができるようになるなど、ソーシャル・セーフティ・ネットを導入する余地を作ることにもなります。

以上が私が掲げる回復のための四つの「R」です。さらにここで、IMFの役割 (*role of the IMF*) という五つ目の「R」についてもお話したいと思います。

世界が危機の新たな危険な段階に入ったことは、既に申し上げたとおりです。このような中、187カ国が加盟するIMFは、世界に広がる加盟国の間で連携を促進するという、ユニークな立場にあります。どのように協力関係の構築を進めているのでしょうか。

- 我々のサーベイランス（政策監視）により、リスクを特定することができますが、同時に各国間が結びついていることによる機会も見出すことができます。
- 我々の政策助言は、成長、主な脆弱性、波及効果など、主要な課題を浮き彫りにすることができ、特に我々が行っている技術支援を効果的に活用すれば、国際協力を導くことができます。
- 我々の融資は、対外不安定性の問題を抱える新興市場国や、緊急あるいは移行ニーズを抱える国々、さらには脆弱な低所得国などが、当面の課題を克服するための猶予を提供することができます。
- 危機の側面を越えたところでは、IMFはより安全かつ安定した国際金融システムの構築に貢献することができます。そして、これは我々のマンデートでもあります。

言うまでもなく、我々は現状に決して満足などしていません。他の皆さんと同様、世界は新たな問題に直面していることから、世界に広がる我々の加盟国に対し、より効率的な支援を行うことが出来るよう、パフォーマンスの向上に努めなければなりません。この点につきましては、来週に迫りました我々の年次総会で詳しくお話する予定ですので、ご期待ください。

終わりに

最後となりましたが、我々は、後戻りや中途半端な施策、あるいはその場しのぎに甘んじている場合ではありません。ウッドロー・ウィルソンは「慎重さには、利己主義が潜んでいる」と述べましたが、これは、今私がここで述べたことのエッセンスを的確に伝えていると思います。

政策立案者は、連携しなければなりません。2008年の精神を、そして1944年の精神を「チームとしての連携すれば、個々を合わせた結果よりも大きなものを成し遂げることができる」というウィルソニアン・スピリットを取り戻さなければなりません。

我々がこの機を捉えることができるならば、危機から脱し、強固で持続的かつ均衡ある世界成長を取り戻すことができるのです。

進むべき道は明らかです。今こそ行動の時です。

ご清聴ありがとうございました。